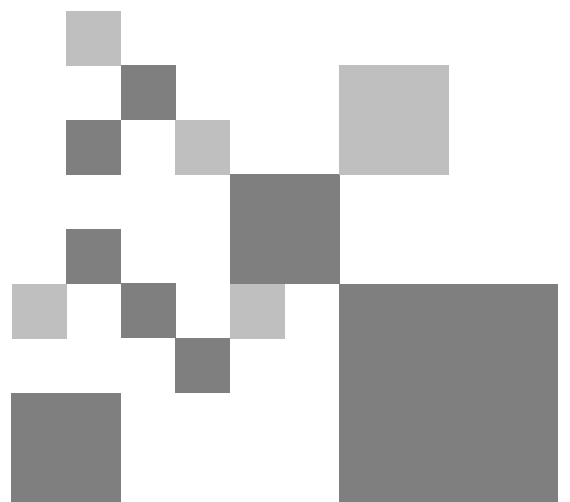




# 第1章

## 計画策定の趣旨

---



# 第1章 計画策定の趣旨

## 1. 計画策定の背景と目的

川根本町（以下、「本町」という）は、東に静岡市、西に浜松市、南に島田市と隣接し、北には奥大井・南アルプスの山麓と前衛の山々を臨むことができ、大自然が織り成す四季折々の美しさを楽しむことができるまちです。

まちのほぼ中央を南北に流れる大井川とその支流には、深く切り立った美しい渓谷や河川が屈曲して流れる「穿入蛇行（せんにゅうだこう）」などの自然景観を随所で見ることができます。この大井川とその支流には長短あわせて10を超える吊橋が架かっていますが、そのうち寸又峡の「夢の吊橋」は、世界最大級のロコミサイトから「死ぬまでに渡りたい世界の徒歩吊橋10」に選ばれるなど、本町を代表する観光スポットの一つとなっています。

さらに、「美女づくりの湯」と呼ばれる寸又峡温泉や「若返りの湯」と呼ばれる接岨峡温泉などの温泉が湧出し、町民と観光客の心と身体を癒してきました。

また、本町には、常時SL（Steam Locomotive・蒸気機関車）が走る大井川鐵道と、日本唯一のアプト式鐵道を有する南アルプスあぶとラインがあり、テレビや雑誌などのメディアに数多く取り上げられるなど、知名度も高く、昭和の面影を残す駅舎とともに、映画やドラマの撮影に利用されることも多く、重要な公共交通機関であり、貴重な観光資源にもなっています。

しかし、本町の過疎化は深刻で、旧中川根町と旧本川根町が合併し、新町・川根本町が誕生した平成17年の国勢調査において8,988人であった人口も平成22年には8,074人に減少しています。この人口減少には歯止めがかからず、定住人口の確保が求められるなか、観光における交流人口の拡大は、人口減少及び地域活性化のための対策として不可欠となってきました。

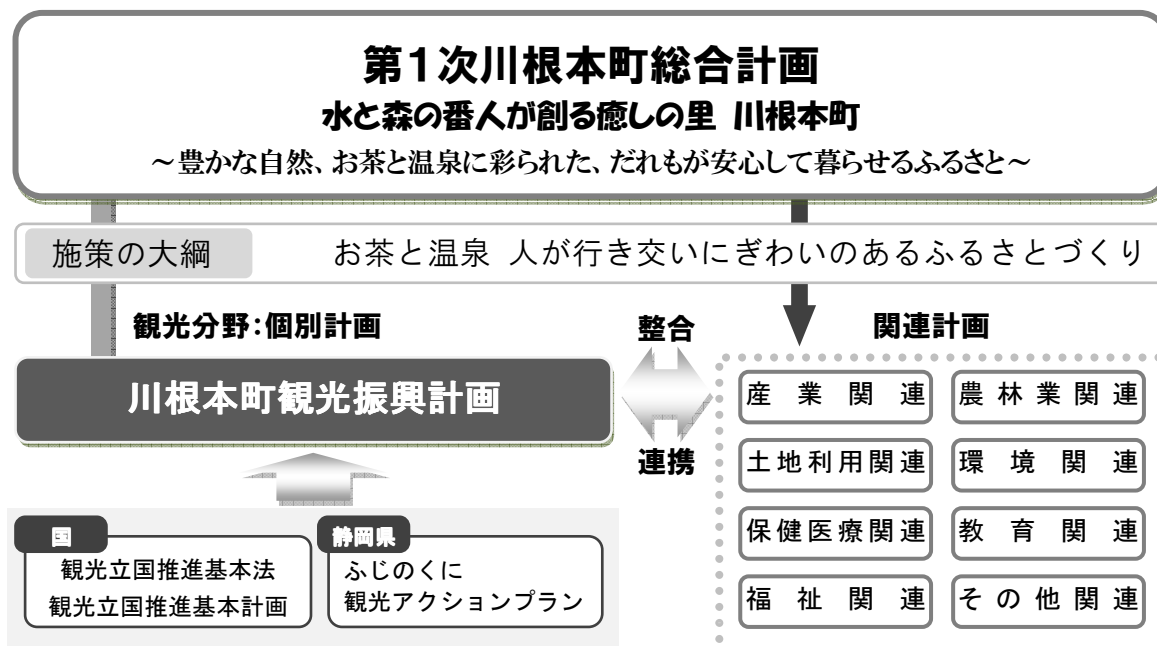
こうした中、平成21年6月には富士山静岡空港開港、平成24年4月に新東名高速道路開通など近隣でのインフラ整備が進み、本町へのアクセスも格段と向上しており、地域経済の活性化はもちろんのこと、本町の観光振興の推進に向け、それらの広域的な利活用が求められています。また、少子高齢化や情報化、近年存在感を増しつつあるインバウンド（訪日外国人客）の増大など、急速に変化する社会環境に柔軟に対応し、まちの特性を生かした観光客の誘致が重要となってきています。

まちでは、これらの背景をもとに、「川根本町観光振興計画」（以下、「本計画」という）を策定し、本町の観光振興において戦略的な観光施策の展開を図り、交流人口の拡大や地域の活性化を目指すものであり、「第1次川根本町総合計画」の観光分野における具体的な方針として、本計画を策定するものです。

## 2. 計画の位置づけ

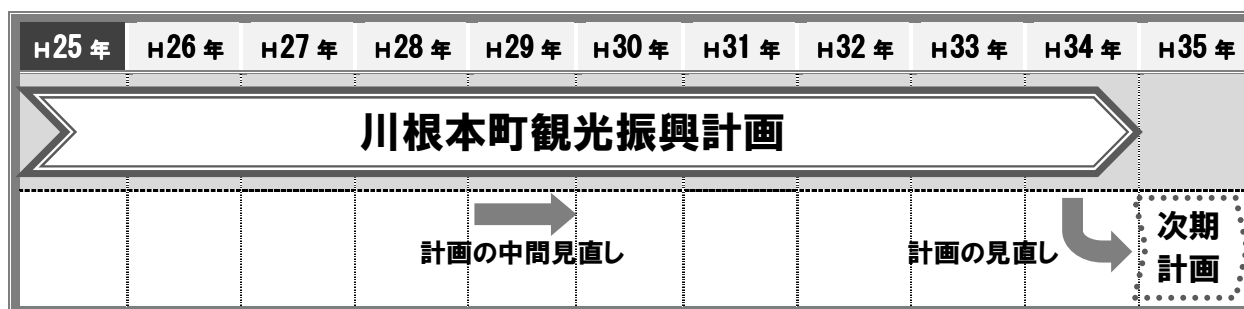
本計画は、「第1次川根本町総合計画」の観光分野の個別計画として位置づけられるものです。

また、国や県の観光にかかわる計画及びまちの関連計画との整合性を図り、観光振興についての理念や方向性、具体的な施策などで構成され、観光振興における役割や連携体制などについても明らかにするものです。



## 3. 計画期間

本計画は、平成25年度を初年度とする平成34年度までの10か年の計画とします。また、計画期間中及び計画期間の満了時には、社会情勢や町並びに観光を取り巻く状況を考慮し、適宜見直しを行うものとします。



## 4. 計画策定の経緯

本計画の策定は以下の流れに沿って進められ、川根本町商工観光委員会での審議も踏まえ策定しています。

